

## 中学2年3組 英語科学習指導案

指導者 岩崎香織

個人のスピーチについてグループで分析した内容を学級全体でさらに共有させてから再びスピーチを行ったことは個人の表現活動を深めることに有効であったか。

### 1 単元名 自分の意見を相手にわかりやすく伝えよう ～Unit 5 A Park or a Parking Area?～

#### 2 授業の構想

(1) 中学2年生である生徒たちは、先輩であったり後輩であったりと学校の中でいろいろな立場で生活している。委員会活動では先輩の指示を受けて活動し、学校をよりよくしようと協力して物事を進めようという姿や、部活動では先輩の引退後、後輩を牽引しリーダーシップを発揮している生徒の姿も見られる。部活動だけでなく、今後生徒会活動なども2年生主体となっていく中で、責任感や協調性が重要であることはもちろんであるが、その場に応じて自分の意見を表明し、意見の対立がある場合は相手が納得するような理由づけをして説得することが必要となってくる。

5月に本学級の生徒を対象に英語の学習についてのアンケートを行った。80%近くの生徒が「英語が得意になりたい」と回答した。生徒達は英語の学習に対して前向きであり、スピーチ活動や音読テストなどを行う中でもっとうまくやりたい、他にどのような表現があるかななどを教師に尋ねるなど意欲的な姿を見せる。日常生活においても、思ったことを素直に表現できる生徒が多いが、時として遠慮のない言動がもととなって行き違いや悪ふざけに発展し、お互いに嫌な気分になることもある。中学2年生として自分の気持ちを優先させるだけでなく相手に対して配慮をしたり、自分の意見を通すにしても相手にわかりやすく伝えたり、自分なりに、相手の同意を得るのに十分な理由を示しながら意思表示ができるようになってほしいと考えている。

県学力調査の結果によると、本校の生徒達は「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」についてどの領域もほぼ均等に力を伸ばしてきていることがわかった。特に「書くこと」に関しては正確であり発展的な内容についても積極的に学習に取り組み、自分で辞書を引く表現を工夫する姿が見られる。しかし、そこでつけた語彙や表現をいざ「話すこと」で発揮できるかということ、自信をもって話すことが難しいと感じている生徒は少なくない。実際に1学期末にALTとのインタビューテストを行った際にも、ALTの話の内容は何となく理解ができるが、それに対する返答として自分の話す内容は適当なのか、また自分が伝えたいことを伝えるにはどのような表現が適切なのかと自信なさそうにしている生徒も見られた。そこで、自分にとって身近なトピックについて自分なりの意見を持ち、友だちと対話する活動を続け、その対話を他者にモニタリングしてもらい、その結果をグループ・学級全体で共有する活動を、段階を追って仕組んでいけば、「話すこと」・「聞くこと」についても能力を伸ばすことができると考えた。

(2) 本単元のねらいは、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができるようにすることである。コミュニケーションをとるうえでの表情、声の抑揚などを工夫することはもちろんであるが、本単元の新出言語材料である接続詞if, that, because, whenを用いることで文の構成の面からもわかりやすさ、伝わりやすさについて考えることができると考える。1年生や2年前半でのスピーチ活動やテーマ英作文では単文での表現が主であったが、本単元で学習する接続詞を用いると複文での表現が可能となり、生徒の話す英語が生徒の日常話している日本語の表現に近づくことになる。例えば過去に経験した事実について感想を述べる、理由をつけて考えを表すなどより豊かで自然な表現にすることが可能になってくる。

本校学園外国語活動・英語科では、「豊かな学びの姿」は、ただ単に基礎的・基本的な知識や技能が

定着している状態を指すのではなく、他者とのかかわり合いを通して、それらを高め合い、探究心をもってさらなる自己の伸長を図る姿をとらえている。その姿を本単元のねらいに照らし合わせると、自分の意見を表現するのに、語と語、文と文のつながりに注意して正しく話すことができる(基礎的・基本的な知識や技能の定着)だけでは十分でなく、自分のパフォーマンスについて友だちから意見をもらう(他者とのかかわり合い)ことを通してよりよい表現活動を実現するような学びの場を設定することによって生徒の学びが豊かになると考えられる。2年生の段階で身につけた意見のやりとりの仕方や相手に伝わりやすい文章表現の能力を基礎として、3学期に行われる校内英語弁論大会において自分の主張を聴衆に伝わりやすい表現にするにはどうしたらいいかという視点をもって発表できるようになってほしい。またその経験が3年生での自分の意見を言ったり書いたりする活動とその共有化を図る活動につながり、最終的には3年生での校内英語弁論大会において、中学校3年間の学習で身につけた表現力や文章構成能力をいかして、自分の主張を聴衆に訴えかけられるようになってほしいと考えている。

本単元での生徒のスピーチテーマを、教科書本文で問題となっている、「みどり公園を新しく駐輪場にするか、みどり公園を公園として維持するか」とする。生徒は自分自身がみどり市の市民であると仮定して、自分はどちらの立場なのか、またなぜそう思うのかを相手に伝わりやすいスピーチにするという活動を設定する。教科書本文でも公園を維持する立場の意見が取り上げられているため、生徒にとってもモデルがあり、自分の意見を考える際に参考とすることができる。安全面、環境面について生徒は理由を考え自分の意見を表明するであろうが、そのイメージを膨らませるために、島根大学が行っている環境マネジメント活動のうち、放置自転車・違法駐車に関する取り組みを紹介したい。

(3) 本単元の第1次、第2次では読み取った内容に対して接続詞を利用して自分の意見を述べるという活動を行う。ここでは接続詞を含む文に慣れ親しみ、語と語、文と文のつながりを意識して自己表現活動ができるところまでをめざす。第3次では相手に伝わりやすい文章構成についての視点をもたせるため、教科書が扱う新聞記事を模した文章の構成を分析することにより、その文章のなかでのそれぞれの文の役割に気づかせたい。そして分析内容をもとに、サンプル文章をわかりやすく伝わりやすい構成に書き直す活動を行った後、与えられたテーマについて自分自身がどのような論を展開するのか考えさせ、グループ内でスモールスピーチを順に行い、その内容を録音する。スピーチを聞く側は、話し手の話す様子を観察し、良い点・改善点についてメモをする。第3次の第2時ではその録音音声とスピーチの観察記録をもとに、相手にわかりやすい表現となるよう工夫すべき点を考えさせてから再度スピーチの組み立てと発表を行い、生徒それぞれに相手に伝わりやすい表現とはどのようなものかを実感させたい。

本学級の生徒はこれまでの学習で、スピーチ活動やテーマ英作文の活動を通して自分の考えや思いを発信すること、また友だちの意見を受け取ることを行ってきた。本時では、これまでの学習から一段階進めて、自分が受け取った友だちからの意見を利用してよりよい表現活動ができるよう、次のように生徒の学習を組み立てる。まず、前時に録音したスピーチをグループで分析し、話の内容についてよりよい文章構成となるように言語面・表現面の両方から練り直す。その後、各グループから有用であった情報・表現をホワイトボードでまとめたものを発表させ、学級全体で共有する。この学び合いを通して、言語面では表現したものが音声と文字として見える形に残ることで、生徒同士でも発音やイントネーション、文法やスペリングの誤りを訂正しやすくなることを考える。また対話の内容面についても、生徒が書いた複数の意見や考えの中から説得力のあるものを選択した後、内容的にまとまりのある文章の構成にしたり、スピーチに出てきた英文に説明や具体例を付加したりするなど、相手に理解されやすい文章にする効果が期待できる。グループワークの後、学級全体で話し合い内容を共有することによって、自分の気づけなかった視点を獲得ことができ、個人で自分自身の考えをよりよい表現で発表することに役立てられると考える。この学級全体での学び合いの際には、教師は次のような視点ではたらきかけをしていきたい。言語面では、伝えたい内容を不十分な英語でしか表現できない場合について適切な表現で言い直したり自身の録音音声と教師の発音と比較させたりすることを通して、生徒に英語という言語について思考し判断する意識をもたせたい。また、生徒が対話の内容を膨らませることができるよう、ホワイトボードに出てきた表現について関連した質問をして意見を広げたり別の視点から物事が考えられ

たりするきっかけをつくりたい。また学級で意見や考えを共有させた後、活動を個人に戻したときに表現内容が深まるようなはたらきかけをしていきたい。学習の終末では同じトピックでのスピーチを再度録音し、自身のスピーチがどれくらいわかりやすく伝わりやすくなったかを初めのスピーチと比較することで、個人のふりかえりの材料とし、自分自身の表現の力の伸びを実感させたい。

### 3 展開計画（全7時間 本時7/7）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇は、学級全体の学び合いの場面）
1	何が起きたかを正しく読み取り、それについての意見を述べよう。	1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続詞 if を含む文の意味や構造およびその運用について理解する。</li> <li>接続詞 if を用いて自己表現活動を行い、友だちと話す。</li> <li>接続詞 that を含む文の意味や構造およびその運用について理解する。</li> <li>接続詞 that を用いて自己表現活動を行い、友だちと話す。</li> </ul>
2	新聞記事を読んで、自分の意見を友だちに伝えよう。	3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続詞 when を含む文の意味や構造およびその運用について理解する。</li> <li>接続詞 when を用いて自己表現活動を行い、友だちと話す。</li> <li>接続詞 because を含む文の意味や構造およびその運用について理解する。</li> <li>接続詞 because を用いて自己表現活動を行い、友だちと話す。</li> </ul>
3	相手に伝わりやすい文章を考えよう。	5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p. 52-53 をモデルに、文章構成を分析する。</li> <li>サンプル文章をわかりやすい構成に校正する。</li> <li>与えられたテーマについて自分の考えを組み立ててスピーチし、録音する。</li> </ul>
	友だちと意見交換をして、自分の意見をより相手に伝わりやすい表現にしよう。	⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇友だちとスピーチを分析し、より相手に伝わりやすい表現にする。</li> <li>分析をもとによりよい表現を心がけ、同じトピックについて再度スピーチをし、録音内容をもとに自分の表現の高まりを実感する。</li> </ul>

### 4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
3	⑦	◇友だちとスピーチを分析して、より相手に伝わりやすい表現にしよう。	与えられたテーマについて、文の構成に関する知識を活用し、聞き手を意識して自分の意見を伝えている。	録音音声 ワークシート 観察	相手に伝わりやすい文章構成で、聞き手に配慮しながら自分の意見や主張を理由とともに相手に伝えている。	相手に伝わりやすい文章構成で自分の意見や主張を相手に伝えている。	自分の意見や主張を伝えていない。

### 5 本時の学習

#### (1) ねらい

自分の意見を他の生徒と交換することを通して、より相手に伝わるように話すことができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. あいさつをする</p> <p>2. 本時の流れとめあてを確認する</p> <div data-bbox="359 392 1157 436" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分の考えがより相手に伝わるように表現を工夫しよう。</div> <p>3. グループワーク① 前時に録音した個人のスピーチをグループでふりかえり、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・主張がはっきりと言えている。</li><li>・理由があいまいである。</li><li>・もっとゆっくりはっきり話すとよい。</li><li>・声が小さい／大きい。</li></ul> <p>4. 情報共有 各グループから出たホワイトボードを見ながら、構成面・表現面について有用な情報・表現を学級全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・結論を先に言ったほうがいい。</li><li>・理由が不十分であると相手に伝わりにくい。</li><li>・経験したことを入れると説得力がある。</li><li>・話すスピードが速すぎるとよくわからない。</li><li>・メモや原稿ばかり見ているは伝わりにくい。</li></ul> <p>5. 再スピーチ 学級での話し合いを参考にもう一度スピーチメモをつくる。</p> <p>新しいメモを参考にスピーチを行い録音する。</p> <p>スピーチを聞く側は話し手の話す様子をメモする。</p> <p>6. グループワーク② 録音音声と友だちの記録内容をもとに前時のスピーチと比較して、自分の良くなった点をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前回と比べてわかりやすくなった。</li><li>・相手を意識して話せるようになった。</li></ul> <p>7. 本時のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・友だちがわかりやすくなったと言ってくれた。</li><li>・相手により伝わるようになってうれしい。</li></ul>	<p>・本時の学習に見通しが持てるように、流れとめあてを提示する。</p> <p>◎相手にわかりやすく伝えるにはどういった点について改善を図る必要があるか視点をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・スピーチの構成面…主張が明確であるか。 主張を支える理由があるか。</li><li>・スピーチの表現面…話すスピード、声の大きさ。 相手を意識した話し方であるか。</li></ul> <p>◎グループでの話し合いをもとに、スピーチの構成や話し方をわかりやすくさせるために盛り込んでおいた方がよいことを全体で確認しあう。</p> <div data-bbox="821 1176 1412 1534" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto;"><p style="text-align: center;">— 評価の観点 (外国語表現の能力) —</p><p style="text-align: center;">与えられたテーマについて、文の構成に関する知識を活用し、聞き手を意識して自分の意見を伝えている。</p><p style="text-align: center;">【評価方法 録音音声・観察】</p><p><b>支援</b></p><p style="text-align: center;">与えられたテーマに対して自分の意見が持てるようヒントとなる語彙や表現を与える。</p></div> <p>・グループ内や学級全体での情報共有により、自分の表現が深まったことを実感させる。</p> <p>・自分の良くなった点に気づくこと、それを他者から認めてもらうことで次の表現活動への動機づけのひとつにする。</p>